

学園ニュース

富山大学

NO.39

編集 学園ニュース編集委員会 発行 富山大学

昭和 57 年 7 月 10 日



学内風景(その4) 工学部構内 西 紀子

— 目 次 —

新入生への言葉	教養部長 梅原隆章	2
新入学生に望むこと	学生部長 四谷平治	3
富山大学附属図書館の電算化を急ぐのは得策か	附属図書館長 若林嘉一郎	4
新任教官紹介及びあいさつ		5
ノースウェスタン大学での研究生活を終えて	工学部助教授 塩澤和章	10
変わる中国 変わらぬ中国	教養部助教授 相原 茂	11
学部, 教養部, 保健管理センター, 学生部だより		12

新 入 生 へ の 言 葉

教養部長 梅 原 隆 章

富山大学入学式が行われた後、新入生は全員教養部に所属し、本学では一年半の一般教育課程をおさめることにきめられている。入学当初いわゆる「五月病」という不愉快な時期を持つ学生が発見される場合がある。不幸にして、そんな精神状態が深刻に現われることがあったとしたら、早く保健管理センターに赴いて、健康指導をうけるようにしてほしい。

諸君には、多少とも大学入試の重圧の下で、勉強せよ、勉強せよ、という環境に置かれる強制力が働らくので、千篇一律の型にはめこまれざるを得ないのである。それが大学入学と同時に、大転換を経験するのであるから、違った環境条件に順応する、転身のすばやさを持たない者には、苦痛で空しい学生生活と感ずることも当然で、深く同情すべきことであると思う。

教養部に所属する間に、精神の独創性をとり戻し、自己の個性に合致する学び方を体得し、また運動部や各種サークル活動に参加して、人間的友情を回復してほしいと思う。早くよき友人を見つけだし、生涯の友として互に尊敬と敬愛の念を終生持ちつづけられるようにしてほしい。単科大学と非常にきわだって異なることは「教養部」があることであり、専攻学部に限らず全学部にまたがって友達を形成できることが総合大学の著しい長所であると思う。

情報量の増大は、実験科学・人文科学・社会科学のすべての学問について見られるのであるが、世間の眼に重点指向する傾向と、首都の流行に引きずられる風俗は、結果的に内省的な思想・哲学・宗教などに沈黙考する余裕を失うことになりがちである。精神的内容の空洞化傾向が甚しくなっているようである。その反省が「地方の時代」「主体性の確立」などのよびか

けが行われる理由の一つであろう。

一般教育履修期間中に、幅の広い知識や教養を身につける努力をしてほしいものである。人格形成のすこやかな発達が教養部において期待されているのである。

高校時代の秀才といわれる人は、殆んどが英語・数学の二科目に優れた生徒である場合が多いのであるまいか。勿論この二科目は重要であることは申すまでもないが、もし諸君が、これこそ最善の勉学重点指向学科であるという迷信にとらわれているのなら、正道に立ち帰ってほしいのである。この二科目は明治初年に学校教育の始まった時点において、世界一の強国を誇った大英帝国の言葉をマスターして、技術的学問の根源であるアラビア数字による数学に通暁して、先進欧米諸国のめざましい「技術」を一日も早く吸収する手段と考えた時代に、如何にして真似るか、それには英・数さえマスターしていれば、一番便利に早く「マネ」られるという学制の便宜主義が百年間もつづいたことに遠因がある。「和魂洋才」という明治のスローガンは、まさにこのことを表現していたのである。しかし、車の両輪として考えられた洋才（西欧技術）和魂（日本精神）のうち、前者のみが偏重されて、人間的な味の深い日本精神の涵養に欠ける点があった、思想の乏しい人間が充満することになったのである。若き日の歓喜にみちあふれた青春をむなしく過すことなく、視野をひろげ、あらゆる学問領域にエネルギーに取組んでほしい。教養部の全教官は、自己の専攻する学問にプライドを持って専念考究している。敬愛の心をもって謙虚に学びとって、青春の日に悔いのない学生生活を送ってほしい。

新入学生に望むこと

学生部長 四谷平治

この「学園ニュース」は本学に集う人々－学生と教職員－に広く知って貰いたい事項を集録するPR活動として約10年程以前からすなわち大学紛争の経験を経て発行されることになったものである。本号は本年の新入学生を迎えて始めてのものでいわば新入学生歓迎号とでもいうべきものであるがもう既に6月に入っているので新入学生の歓迎とかオリエンテーションなどということを行うには少し時期を失していると思うが学生諸君がわが富山大学で何を学ぶかということについて少し述べてみたい。

オリエンテーションという言葉は「方向づけ」という意味に使われているが「新しい夜明に面して東の方へ向きを変える」(turning toward the east, facing a new dawn)という意味のようで新しい環境に自己を適応させることを援助することであると定義されている。

多数の新入学生のなかには生れて初めて家を離れて下宿をしたり寮に入ったり、或いは新しいキャンパスで見知らぬ人々との初めての交流が始まるわけであるから、これから何をどう学ぶかということに大きな不安感を抱くのは無理からぬことである。この心理的な困惑と孤独感から1日も早く脱脚して大学生活に適應して十分な所属感もしくは安定感をもって毎日の学生生活を有意義に送るようにして貰いたいと願っている。これにわれわれは助言と援助の手をさしのべたい。

大学でやるべきことは2つの側面を持っている。1つは自分の選んだ専攻の学問習得の場であり、もう1つは社会生活をしてゆくための人間形成の場であろう。これからの社会は大きく変動してゆく様相を示しているのであるからこの複雑さ、流動性、不確定さを考え

るとその未知なものに対応して自分の頭でそれらを分析し、推理し、判断し、構成する能力を養うことが最も重要なことであると思われる。古くから言われていることに「日本の教育には learn だけあって study がない」という、learn は覚えることであり知識を拾得することであろうし study は究めることであり物事の本質を解明することであろう。これは学生の側からの見方であるが教師の側からは、単なる知識の teaching (教えること)ではなくて education (才能を引き出すこと)をすることが最も大事であるとされる。

この2つの事柄を組み合わせて teaching-learning 型から education-study 型の勉学に切り換えてゆく所に大学の本来の意義があるように思うのである。物知りで真似が上手な人ではなくて掘り下げて物事の本質を理解する事が大事のように思うのである。そのためには広くあらゆる角度から物事をとらえることが必要であっていろんな物の見方があることをよく知るべきであろう。

この機会に一言触れておきたことがある。それは世間ではよく一流大学とか三流大学或いは国立大学とか私立大学とかいう評価があってこれで大学のランキングづけをしていることについて抗議しておきたい。共通1次試験が行われるようになって既に4年になるが、この頃特に一般に言われるようになった、これを学生諸君は自分で是認しないでほしいことである。これは世間の評価よりも自分の評価を基準に持つようにしてほしいと思う。世間の評価を本気で信じてはいけない。もともと大学は一流でも三流でもないのであって学ぶ意欲のある学生の集まる所そこに一流大学があるのだと思うからである。何にしても人間の大きい成熟の過程にさしかかっているのであるから自己に忠実に自らの努力によって充実した学生生活を送って戴きたい。

富山大学附属図書館の

電算化を急ぐのは得策か

附属図書館長 若 林 嘉 一 郎

現在、全国の大学図書館が共通的に直面している重要課題の一つに、学術情報システムへの対応がある。このシステムの目的は

- (1) 全国の国公私立大学図書館（約 900 館）が所蔵する書誌の所在情報を計算機可読の標準的形式で各大学のユーザー（教官と学生）に即時的に提供する。
- (2) ユーザーの要求により 2 次情報（Chemical Abstract のような加工情報）の即時的検索に応ずる。

であり、このサービスは学術情報センターの計算機（記憶容量・約 3,500 億バイト）を介して行なわれる。ただし、同センターは昭和 60 年に設置の予定であったが、最近の諸般の事情により開設遅延のきざしがみえて来た。この事態を憂慮した国立大学図書館協議会（会長：東京大学附属図書館長・裏田武夫氏）は学術情報センターの早期開設について文部大臣に要望書を提出した。

ここに、同センターが設置されても、富山大学附属図書館のような電算化していない館は蚊帳（かや）の外に置かれるだけである。そこで、上記協議会の理事会において、大阪大学附属図書館長と筆者は各大学附属図書館の電算化の早期実現についても文部大臣に要望してほしいと主張した。しかし、われわれの主張内容については、要望書の末尾において 2 行足らずの文章で記述されたにすぎなかった。

一方、上記協議会での発言とは別に、本学図書館の電算化につき文部省に陳情したが、今の処確かな手答えを感じ取ってはいない。

ここに至って、わが図書館の電算化を少々遅らせてもよいのではないかという消極的な心境に落ちても不思議ではない。

周知のように、計算機のコストパフォーマンスは経年的に向上するのであるから、電算化を遅らせると限られた予算（45 万円／月のレンタル機の予定）で大記憶容量機を購入できることになる。

現在の処、上記の予算で購入できる計算機では、わが図書館のおもな蔵書情報の格納はむずかしいので、そのデータは学術情報センター機にだけ入力されることになる。そのため、自館蔵書の所在検索に通信回線使用料を支払うのが余儀ない始末となる。* このように見ると、与えられた予算で適当な記憶容量の計算機を購入できる時期が来るまで待つのが得策といえる。

ただし、本稿の冒頭に書いた学術情報システムの与える 2 種のサービスを受けるためにも通信回線を使用するのであるが、その回線の使用頻度が高ければ専用回線を利用することになろう。ここに、専用回線利用の場合には自館蔵書の情報入手の度ごとに、通信回線の使用料を払うことはない。

また、大記憶容量機を購入可能時期まで電算化を待てば、その待機期間中は本学教官と学生は上述の学術情報サービスを受けることができない。

そのほか、小記憶容量機を入れたとしても、それがレンタル機であるため 15 か月後には更新できることも見逃がしてはいけない。

以上、あれこれと考えをめぐらした末、わが館の電算化を急ぐという富山大学附属図書館商議会の決議を変更するべきではないと悟るに至った。

~~~~~・~~~~~・~~~~~

脚注 { \*通信回線として専用回線を利用するならば 60 万円／月の使用料が必要となるし、電話回線を用いるときは 1 冊の蔵書情報（1 冊当り情報量を 500 バイトと仮定）の入手に約 10 円かかる。



# 新 任 教 官



- |                                                 |                                                          |
|-------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| ○釘貫 亨 講 師 (人文学部) 57. 4. 1                       | 昭 57. 3 神戸大学大学院経済学研究科博士課程<br>退学<br>担当：経済原論第一             |
| 昭 56. 3 東北大学大学院文学研究科博士課程後<br>期中退<br>担当：国語学      | ○小嶋 學 教 授 (理学部) 57. 4. 1                                 |
| ○古川 雅文 助 手 (教育学部) 57. 5. 1                      | 昭 26. 3 名古屋大学理学部生物学科卒業<br>(昭 36. 7. 27 理学博士)<br>担当：環境生物学 |
| 昭 57. 3 広島大学大学院教育学研究科博士課程<br>単位取得退学<br>担当：発達心理学 | ○河田 洋 助 手 (理学部) 57. 4. 1                                 |
| ○伊藤 良広 講 師 (経済学部) 57. 4. 1                      | 昭 57. 3 東京工業大学大学院理工学研究科物理<br>学専攻博士課程修了<br>担当：結晶物理学       |
| 昭 55. 3 一橋大学大学院法学研究科博士課程単<br>位取得<br>担当：憲法       | ○大岡 耕之 教 授 (工学部) 57. 2. 1                                |
| ○小嶋 典明 講 師 (経済学部) 57. 4. 1                      | 昭 28. 3 京都大学工学部冶金学科卒業<br>担当：金属材料学                        |
| 昭 55. 3 神戸大学大学院法学研究科博士課程単<br>位取得<br>担当：労働法      | ○氣賀澤保規 助教授 (教養部) 57. 5. 1                                |
| ○相沢 吉晴 助 手 (経済学部) 57. 4. 1                      | 昭 50. 3 京都大学大学院文学研究科博士課程修<br>了<br>担当：歴史学                 |
| 昭 57. 3 東北大学大学院法学研究科博士課程退<br>学<br>担当：国際取引法      | ○麻生 三郎 助教授 (短期高等教育機関 (高岡) 創<br>設準備室) 57. 5. 1            |
| ○新里 泰孝 助 手 (経済学部) 57. 4. 1                      | 昭 26. 3 金沢美術工芸専門学校金工科卒業                                  |

## 新 任 の あ い さ つ

人文学部講師 釘 貫 亨

着任して2ヶ月経ちました。早いものです。私はこの3月まで大学院の学生でしたので、富山大学は社会人としてスタートの職場です。始めの頃は随分、緊張して落ち着かなかったのですが間もなく学生諸君とも仲良くなり、この頃は張りつめた中にもリラックスした気分で仕事をしています。

授業は週3コマ受け持っているのですが最初考えていたよりもはるかに準備が大変で、休日返上でノート作りに追われているという状態です。このノート作りの過程で、たとえ極く基本的な知識であっても案外分っていなかったことを発見して自分でも大変勉強になります。幸い、私は大学院時代、高等学校の教壇に立った経験がありますので、現場で教わった「すぐれた情報を分り易く」の原則を本学でも生かして行きたい

と考えています。私の専攻分野は、古代国語音韻史という大変取り付きにくい性格の学問ですので、どこまでこの方針が徹底するか不安でもあります。

ところで、私は和歌山県の出身なのですが、小さい頃、学者を揶揄した次のようなエピソードを聞いたことがあります。

「昔、蚤のきんたまの研究をしている偉い学者がいた。彼は研究に熱中する余り、日露戦争が始まったのも終わったのも知らなかった。」

これが実話に基いたものなのかどうか私には興味ありませんが、今でも帰省した折、友達と話をしている、お前は一体、何を勉強しているのかと聞かれて、かくかくしかじかと答えると「それは蚤のきんたまの研究やな。」とからかわれます。自分の研究が世の中

の役に立っていないというコンプレックスは、人文科学の研究者なら多かれ少なかれ誰もが持っているものだと思いますが、自分の研究対象を人間の歴史や社会

から孤立したものとして捉えない、という視点だけは失いたくないものだと考えています。

## 新任のご挨拶

教育学部助手 古川 雅文

本年度5月より本学教育学部に赴任いたしました。長年なじんだ学生生活から数か月前にやっと別れ、大学教官としての第一歩を踏みだした状態ですので、勤務に慣れるのに精一杯で、この1か月というものは、あっというまに過ぎてしまったというのが実感です。

私は、広島県は竹原という、瀬戸内海に面した田舎町で生まれました。その後、二十歳から9年間、広島で学生生活を送り、今では青年期を過ごした広島を第二の故郷のように感じています。これから、富山で社会人として熟年期(?)を過ごすことになりましたが、今はまだ「広島から来た古川です」という気持ちが無意識のうちに残っているようです。この気持ちが、いつごろ、どのようにして「富山の古川です」という意識に変わっていくか、興味をもって自分の内面をみつめています。

富山の街の第一印象は、自然に囲まれた街というものでした。初めて富山を訪れた時、くっきりと立山連峰が見えましたが、この時には畏れにも似た気持ちが湧いてきました。中国地方の狭い平地と老齢期に入ったならかな稜線をもつ山々を見なれていたものですから、広々とした平野から突然とほうもない高さでそそり立つ立山の姿は、正に驚嘆すべき景色として映るのです。この一か月はほとんど余裕がありませんでしたが、これから機会をみつけ、豊富な自然と親しみ、ま

た、富山の街にもなじんでいくようにしたいと思っています。

冬場の雪の話もよく聞きます。私は積雪というものを全く経験したことがありませんので、雪については期待と不安がないまぜになっている状態です。スキーも一度もしたことがないので、今から非常に楽しみです。今のところ、景色は良いし、魚はうまい、ほんに富山は良いところという印象を持っています。ゆくゆくは、富山の街を私の三番目の故郷と呼べるようなりたいものだと思います。

研究面でも、新しい人々の新しい考え方に触れ、様々な分野に興味が湧いてきています。しかし、何事も究めようとすればするほど奥深く、立山の峰々を仰ぐがごとく、遠くて高いなあという思いがしています。全く新しい環境に移りますと、見るもの聞くもの新しく、つき合う人々もまた新しくなるので、慣れ親しんだ古い環境の中では相当な努力を要する気分の一瞬、視点の転換などが比較的容易に、自然にできてしまうようです。こうした利点を生かし、また第一歩からやり直すという新鮮な気持ちで、じっくりと腰を据えた研究を目指していきたいと思っております。

前述しましたように、まだ経験も浅く、あらゆることをこれから勉強していきたいと思っていますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

## 地域の中で地域を問う

経済学部講師 伊藤 良広

着任してからはや2か月が経ちました。名古屋で生まれ岡崎で育ち東京で10年余の学生生活・社会人生活を送った「漂泊者」の私にとって、富山もまた地域というものに対する深い興味を触発する際会の地である点において、他所に勝るとも劣りませんでした。かなたに見はるかす立山連峰、大学の傍らにたたなずく呉羽山、あゆの踊る神通川は初めて接するものではありませんでした。また、新産都市、三七教育制度、イタ

イタイ病など、富山にまつわる通り一遍の知識も一応頭の片隅においていたつもりです。しかし、当然のことながら、富山にとって純然たる「漂泊者」であった私と2か月間の富山県民として一步「常民」に近づいた私とでは、地域に対するその視点と捉え方において質的な違いが生じているようです。そこで、前の職場が都市問題・地方自治の研究機関だったということもありますが、今後は憲法学という本来の守備領域・

専攻領域と並んで、否、その1個の応用分野として地域に対する研究を深めて行くことができたかと考えております。地域についてどこまでも地域の中で考えること — それこそが中央主導で「地方の時代」が呼号されるこの逆説的な80年代にあって、「地方の時代」を実質化して行くための地道ではあっても真当な方法ではないでしょうか。オイル・ショック以降「油上の楼閣」としての日本経済のあり方が問い直され、富山でも電力多消費型の大企業の操業短縮・停止・撤退が

喧伝されつつある昨今、新産都市20年間のバランス・シートならびに地域経済の内発的活性化のための処方箋の作成が喫緊の課題として日程に上りつつあるだけに、その必要性が痛感される次第です。いずれにせよ、今日の憲法学が歴史的社会的実践としての解釈学の一層の精緻化・体系化とあたかも併行する形で、社会科学の一分野として歴史的社会的事象のトータルな認識へと向かわなければならないことは、確かです。

## 労働法学者は失業する？

経済学部講師 小 嶋 典 明

0.308。といってもA監督率いるT球団の勝率のことではありません。この数字は、わが国の労働組合の組織率（組合員数÷雇用者数。昭和55、56両年）を表したものです。そしてわが国の労組が3割バッターの位置からすべり落ちるのも、そう遠い日のことではないと思われま（ちなみに昭和25年の推定組織率は46.2%）。

このような深刻な状況下において、昨年、M電機労働組合中央執行委員の要職にある奥井礼喜氏が一冊のショッキングな本を著しました。題して『労働組合が倒産する』（総合労働研究所）。氏はその中で、労働組合として現状のままでは遠からずその存在理由を失い、消えさる（倒産する）しかないことを力説しています。労働組合の存在を（唯一の？）存在理由とする労働

法研究者にとって、氏の主張が組合員にとってと同様に切実な意味をもっていることはいうまでもありません。

しかし新任の挨拶として、己が失業（廃業）を語ることはほど不穏当なことではないでしょう。奥井氏も、労組の倒産をまぬがれる道として、新商品の開発（例えば中高年対策）が残されていることを明示しています。かくて私ども研究者も、生き残らんがためには、ニュー・ルック、ニュー・ウェイヴの労働法の開拓に努めねばならない。そんな時代が到来したのではないのでしょうか。

ともあれ、前途多難のわが身、わが国……ではありますが、末長くおつきあい下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 仙台から富山へ

経済学部助手 相 沢 吉 晴

富山へ来てから、もう2か月が過ぎようとしていますが、富山の町並み、川等をみても仙台を思い出します。仙台と町の造りそのものが似ているせいもあるでしょうが、まだ「富山の人」になりきっていないせいかもしれません。しかし、そういった気持ちも徐々にうすれ、「住めば都」といった気持ちが次第に強くなっていくのも一方では事実です。それが良いことか悪いことかは別にして、富山での生活に慣れきろうという自分の気持ちに素直にしたがおうとしています。

ところで、私の専門は、『国際取引法』という、なかなか定義しにくい分野ですが、なじみやすいところで例を挙げると、最近、話題になっている、貿易摩擦

の問題の「貿易」（実は、国際売買契約のこと）とかロッキード事件で一躍脚光を浴びた、代理店契約、コンサルティング契約等々が入ってきます。実は、これらの問題は、『国際取引法』という分野のごく一部にすぎず、『国際取引法』という分野は実に様々な分野にまたがり、色々な問題を含んでいます。したがって論者により、取り上げる事項も一様ではなく、『国際取引法』と銘打たれる教科書もその内容は色々であります。そういった現状において、果たして、講義をするような立場に立たされたときに、どういった問題を取り上げてよいものやら途方にくれてしまいそうです。ともあれ、現在のところは、そういった学問上の不安

は別にして、おいしいものを食べさせてくれる店を捜しています。ご存知の方がいましたら、どうかご一

報下さい。よろしくお願いいたします。

## 新任の挨拶

経済学部助手 にい さと 新 里 泰 孝

本年4月1日に着任して2か月が過ぎ、富山での生活にもようやく慣れてまいりました。私は岩手県釜石で生まれ、大学を東京(早稲田大)で、大学院を神戸(神戸大)で過ごしました。

富山での強烈な印象は立山連峰と日本海です。立山を始めて見たのは、昨年12月経済原論I(近代経済学)の教官公募の願書を提出するため富山大学に来た時です。その日、前日までの雪が止み晴天でした。街の向うに白いカーテンのように立ち並ぶ立山連峰。雄大な山々から流れてくる澄んだ空気は自分の気持ちをきりりと締めつけるようでした。

4月下旬の霧の立ち込める朝、岩瀬浜から滑川・魚

津をぬけて親不知までドライブしたことがあります。海面から水蒸気が湯気となって立ち登り、海岸道路は霧で視界が全くありません。この日は日本海を眺めるには最悪の日であったかも知れません。しかし日本海の特質の1つを知る上では最良でした。冷気が暖かい海をお湯のように沸き立たせている光景は、冬の富山の積雪を納得させるには十分でした。

雄大な立山連峰はすっかり気に入りました。常に、立山のような新鮮な気持ちで研究・教育生活をおくりたいと思います。諸先生方、学生諸君よりの厳しい御教示をお願い申し上げます。

## 思い出すままに

理学部教授 小 嶋 學

あれは、もう37年も前になりましたか、丁度、敗戦の年の3月から、しばらくの間、私は、学徒動員で東砺波郡井波町へ来ていたことがあります。その前の年の12月、東南海大地震により、名古屋市南部にあった私達の工場は大被害を受けた上、空襲も激しくなってきたこともあって、工場が井波町へ疎開することになったのです。それまで、日夜B-29の爆撃にさらされていた私達にとって、作業は厳しかったとはいえ、休日には大牧温泉へも遊びに行ったりして、井波での生活は天国のようなものでした。そうした日々の間にも、ウォーン・ウォーンという、あの独得の爆音を夜空に響かせながら、富山湾へ機雷投下のため、B-29は飛んできていましたが、直接、爆撃を受けるわけでもないの、その点、至極気楽なものでした。

ある晩のこと、いつもと異なり、爆音も高々と、かなりの数のB-29が、私達の頭上を通過してゆきまし

た。しばらくして、北東の空が少し明るくなったと思うと、その明るさを増し、やがて、真赤になりました。確かに、その時、富山が爆撃を受けたかどうか、定かではありませんが、私達は、「富山が燃えている。富山が燃えている。」といいながら、赤い空を眺め続けていました。

富山という言葉聞く度に、先ず思い出すのは、井波で眺めた、あの真紅な空なのです。そういう意味で、私にとっては、富山は忘れ難い名前なのです。人生のめぐり合わせとでもいうのでしょうか、その富山へ、この度、御縁があってやってきて、富山大学に御厄介になることになりました。朝な、夕な、波の音を聞き沖を通る船の汽笛の音を耳にしながら、約半生を送ってきました私ですが、目の前に展開する雄大な立山の山脈を仰ぎ見ながら、日々、只ひたすら、一生懸命に生きたいと希う今日此頃です。

## 新任雑感

理学部助手 河 田 洋

新任雑感なる言葉があるかどうか分かりませんが、こ こ2か月あまり富山大学で過した感想を取り留めなく



書いて御挨拶にいたしたいと思います。

東京での長かった学生生活に終りを告げて、縁あって4月1日より富山大学で研究者・教育者としての第一歩を始めることになりました。とは言うものの、今もって学生気分が抜け切っていないのが実状です。学生の身分は今から思い返してみますと、「とても贅沢な身分だった。」と思います。雑用は全くなく、自分の研究だけを自分の好きな時間に行ない、何らかの成果を半年ごとの学会に報告できる様にしておけばそれで許される身分です。しかし助手という身分ですとそう言う訳にも行かず、細かくは伝票書きから始まり、

学生への実験指導等の仕事があり、従って「これはうまく時間を割り振らないと自分の時間が持てないぞ!」というのが、今日の卒直な感想であり、また結論です。元来、怠け者で遊び好きの性格ですので難かしいかも知れませんが、時間と共にその術を身に付けることが出来るだろうと期待しています。

一方、富山という地の最大の印象は、月並みですがやはり聳え立つ立山連山の姿でしょう。山好きの私は、東京におりました時は、おもに南アルプス・上越の山々を歩いてきましたが、ここに来て立山連山を一度のんびりと歩いてみたいと思います。

## 新任 雑感

工学部教授 大岡 耕之

去る1月31日、永年お世話になり、鉄鋼技術への青春の情熱を燃した数限りない思出を残して新日鉄㈱を退職し、2月1日付で本学へ赴任致しました。昭和28年3月旧制京都大学工学部を卒業、同年4月新日鉄㈱の前身である八幡製鉄㈱に入社、爾来28年10ヶ月、人生の転換、新しい出発である。

北陸は雪が多く寒いとさんざ威されて着任したが、勿論快晴に恵まれる日の多い関東とは比ぶべくもないが玄海の寒風に育った北九州生まれの私にとってはそれほどの違和感も感じさせないし立山連峰の雪景色は心を和ませる。着任して4ヶ月特別感想とてもないが、大学管理組織、機能が整備されて心強い。皆さん親切で何かと相談にのって頂き感謝している。巨大な管理組織の中で育ち馴れてきた私にとって有難いことで共感を覚える事が多い。

最近の日進月歩の科学技術の進歩、きびしい企業環境は企業における技術者、研究者に今日の業務を推進しうる能力は勿論、自己の技術領域、専門分野について少くとも3～5年後の姿を予見し、立案実行しうる能力を要求している。

私の企業におけるささやかな経験が前途有為の学生諸君の教育に少しでもお役に立てば望外の喜びである。

今年4月、東大薬学部(修)を卒業し厚生省薬務局に入省、役人生活を始めた次女のお守りに東京の自宅に家内を残しての初めての単身赴任であるが、家内の決めたメニューで少しづつ生活も定着しつつある。

へたな横好きのゴルフ以外、趣味のない日常を反省し、北陸の鉄の古代史の勉強か、謡曲の勉強でも始めようかと思いを巡らす毎日である。

## ごあいさつ

短期高等教育機関(高岡)

創設準備室助教授 麻生 三郎

このたび、高岡工芸高等学校より5月1日付けで準備室に着任しました。

工芸・デザインの分野を主軸とした新しい短大を高岡に創設するために、その一員として参ったわけです。実は昨年まで4年間非常勤講師として教育学部で造形教育を担当した経験はあるのですが、こうして専任として本格的な大学教育にたずさわるといことは初めてであります。それだけに不十分な認識と課せられた

責任の大きさに心痛いたしていますが、素晴らしい新短大の創立に向け、微力ではありますが一生懸命努力したいと思っております。幸い準備室の先生方はベテランの人達ばかりなので大変心丈夫に思っています。

30年間務めていました高校教育の工芸・造形分野で、自分なりに思う存分造り描いてきた懐しさにいい知れぬ郷愁が感じられてなりません。長い伝統を持つ地域の産業が素朴な手作りの中から芽生え、時代の変遷と共に

に複雑な内容を加えながら近代産業の中に大きな意義を含み進展してゆこうとしています。こうした中で、新しいシステムの高等教育が地域産業にどのような役割を与えてゆくかを考えたとき、多くの問題があると思われまふ。この問題点をひとつひとつ確実に、そして

地道に解きほぐして行く忍耐が今の私に課せられた責務であると思っています。何分にも新参者でございますので、諸先生方の厳しいご指導ご教示をお願い申し上げます。

## ノースウェスタン大学での研究生生活を終えて

工学部助教授 塩 澤 和 章

風の町、マフィア、プレイボーイクラブの本拠地として米国第2の都市シカゴから北へ約20kmのミシガン湖に沿った地にノースウェスタン大学のエバンストンキャンパスがある。昭和55年4月から昭和57年3月までの2ケ年間招聘研究員として当大学 Technological Institute の材料科学工学科 (Department of Materials Science and Engineering) に滞在する機会を得た。1851年に教育・研究の “the highest order of excellence” を目的として開学した私立の総合大学であり、シカゴ・キャンパスと合わせて現在10の school と附属病院を持ち、15,000人の学部学生と大学院生、2,800人の職員から構成されている。ミシガン湖畔に沿った緑の多い静寂な雰囲気約170エーカーの敷地に大小150の建物を配し、りすが美しく手入れされた芝の上を走り廻っていた。

Technological Institute は14の学科から成り、これら全ての学科が一つ屋根の下に收容される巨大な建物である。材料科学工学科は約20年前、米国で初めてそれまでの金属工学科の名称を変更して発足したユニークなものであり、附属研究所として MRC (Materials Research Center) をもっている。これは全米中三大学に特に認められた施設であり、毎年 NSF (National Scientific Foundation) から特別予算が公布されている。各教員の研究費は自分自身で集めてこなければならぬ米国の大学において、この予算は基礎的研究の充実と大型機器の購入に有効に利用され、立派な設備が整っていた。この MRC を中心として活発な研究活動がなされており、高度な研究水準が維持され、著名な多数の教授が在籍している。転位論で著名な J. Weertman 教授、J. R. Weertman 教授は世界的にも珍しいおしどり教授であり、その仲の良さは大学内外で有名であった。主人の J. Weertman 教授は南極大陸内の島にその名前が付けられている。これ

は金属クリープの転位論的研究の業績に対して与えられたものであるが、この論文が掲載されるまでに3回却下され、その度に他の学会に投稿し、考え方を理解してくれる場を探したそうである。今でも却下理由を記した手紙が教授室の額の中に保存されている。“reject される論文はいずれ有名になる。そのような論文を書くことが大切だ。” と奥さんの J. R. Weertman 教授と投稿論文の打ち合わせをしている時聞いた冗談である。

昭和55年の秋学期(10月~12月)に大学院学生を対称とした講義をする機会を得た。週一回120分(普通は1回60分の講義を週3回するが特別に配慮してもらった)を英語で講義するのは重荷であり抵抗を感じたが、学生の勉学態度を経験する良い機会と思い引受けた。講義は「マイクロメカニクス—非リーマン幾何学による材料空間の取扱いとその材料強度学への応用」であり、非リーマン幾何学の基礎からはじめ丁度6月にオーム社から発刊された著者「マイクロメカニクス入門、(大南正瑛編)を中心に口述した。学生は講義中によく質問をする。質問に答えるため講義時間の大半を費やすこともしばしばであったが、講義への情熱が沸き更に時間をかけて講義の準備をするようになった。各時間の終りに Take Home (宿題)を出すのが慣例であり、学生もそれを要求する。講義内容をより深く理解させることを目的とするもので、出題にも頭を悩ませた。学生は夜12時まで開館している図書館で調べ全員が翌週に提出した。各人がそれぞれに解答し、同一内容のレポートは一度も見掛けなかった。常勤の教授の場合各学期の終りに Teacher's Evaluation があり、受講した学生による教授の勤務評定がなされ、これが大学当局の手で集計され、翌年の salary の査定に影響すると聞いて、成績が悪ければ退学になる学生と同様教授に対するその厳しさに驚い

た。

アメリカに到着して3日目道を歩いているとアメリカ人に道を聞かれた。米国は人種のるつぼであり、米国に居れば東洋人の一時の滞在であれそれは全てアメリカ人であると思うらしい。そして英(米)語を話せるのが当然と考えているようである。大陸的発想によるおおらかさか、又は移民によって成立した国であるが由か……。星条旗を愛国心の象徴と考え、その元のみしか団結できないアメリカの不思議を感じた。

週末には各種のパーティが催される。招待された場合はその数週間後にはその家族を招待するのが礼儀であると聞き、我家でも日本料理を中心としたパーティをしばしば催した。ダイエットに異状なまでの関心をもつ人が多く日本食は好評であった。我家の子供達の作る折り紙にも興味を持ち、食事の後は子供が指導者になって折り紙の講習に熱中する事も再々であった。

折しも自動車の輸入を中心として日米間の経済摩擦が生じ、日本の社会構造、労使関係等に関する研究が活発となり、週刊誌、学会誌に特集が組まれ日本に対

する関心が高まった。米国の失業率が10%に近づき経済・技術の停滞に対する警鐘がなされる中で、米国の広大な土地、豊富な物資、手付かずの大自然・資源、そして米国人の未知に対する探求心と興味の深さをみる時、改めて日本の今後の工学・技術の進むべき方向を考えさせられた。

学会出席を利用して訪ねた米国各地、カナダで知り合った人達、各種の研究会で意見を交したノースウェスタン大学の教授、学生達、いずれは日本をそして我家を訪れるであろう。ワイングラスを片手に再度語り合いたいと願っている。サダト大統領が暗殺されて涙を流して悲しみ、厳冬のシカゴは辛いだろうとマイアミ近くの別荘に招待してくれたエジプト出身の会社社長家族、涙を流して別れを惜しんでくれたその3人の娘さん達と Weertman教授夫妻、楽しかった思い出は尽きない。機会があれば再度訪れたい魅力あるアメリカであった。

終りに米国での研究の機会を与えて下さった工学部の諸先生方及び関係各位に感謝の意を表します。

## 変わる中国 変わらぬ中国

教養部助教授 相原 茂

中国で1年半ほど生活した。僕ら中国の言語や文学を学ぶ者にとって、現地での生活は一つの宿願である。その時、できることなら民衆と共に暮らし、民衆の言葉に耳を傾け、一般の人々と喜怒哀楽を共にしたいと思うものだが、中国では今のところ、これはかなわぬ夢である。外国人はホテル住い — これが原則である。

それでも家族4人での中国暮らし。子供の学校や幼稚園も近くの中国人用のを選んだし、女房は日々の食事の買い出しがある。さしあたり言葉ができるのは僕一人。ちょっとした交渉もすべてこちらがやらねばならない。少しは中国社会の日常をのぞけたかとも思う。

～ ☆ ～

中国ほど変化の振幅が大きい国も珍しい。つい昨日まで革命のスローガンを叫び、人々は仕事そっちのけで政治学習やら、政治キャンペーンに励み、生活のすべてがこれ毛沢東思想に彩られていた。公私のすみずみにまで政治や理論が入りこんでいた。

それは私たちから見れば確かにおかしいことで、事実中国の人たちも、まったくバカなことをしましたと苦笑まじりに話すのだが、実際その場に居合わせず、

その場の空気を知らなかった僕らには、当時の切迫した姿は本当のところ分らない。

「私ならそんな空回りの喧噪に背を向けて、勉強や技術の習得にいそしむ」と思ってみても、そんな個人主義的な(と、少なくとも中国では見なされた)態度が大っぴらに許されるものではない。周囲から浮き立つことほど危険なことはない。同じような服装をし、同じような言辞を吐かねば身が危うかった。「危うい」とは、長い間牢屋にぶち込まれるか、反革命分子としてツルシあげられ批判され監察処分になるか、一挙に職を失い人間関係も失うか、あるいは殺されることすら意味したのだ。いずれにしろ一生を賭ける覚悟のいることに違いなく、自分の一生で済めばまだしも、累は一族子孫にまで及ぶのである。しかも、その時点で、いつか真実は必ず勝つなどという保障はどこにもない。

イデオロギーの国、原則の国の通貨はややもすれば極端に走り、教条主義的なヒステリーになることだと言われる。周知の通り、昨今は左から右への大変貌をとげた。4つの近代化を合言葉に、経済効率第一へ、生産と知識と能率の国をめざしている。知識は力とい

う格言が学生の胸にきざまれた。欧米や日本紹介が盛んになってきた。

トヨタの経営方式が紹介される。「学問ノススメ」が翻訳される。日本の化学や物理学の専門書も訳されて本屋に並んでいる。文学の類もよく読まれている。面白いのは The Japanese (ライシャワー) や Japan as No.1 の中国訳がでていて、中国人は外国人のことなら今何でも知れたがっているのに、自分たちが何者であるかには一向関心がないように見えることである。誰も「中国人論」を書かない。海外にあっても振り向きもしない。日本とは対照的である。

最も大きな変化の一つは教育界である。小学生が忙しくなった。元来中国は知識人・文人が出世する国。2千年来の科学の伝統がある。最高の学者・知識人は常に政治家であった。学問がストレートに地位に権力に直結する。

娘は中国の小学校に通っていたが、1年生から毎日宿題が山ほど出る。小学校でも落第がある。重点中学といって、いわば有名校が復活した。親も子も重点中学に入れたがる。何名重点中学へ入れたかで小学校の

評価が決まる。何人合格させたかで先生の評価が決まる。親子学校先生と受験教育は過熱ぎみ。ついに日曜返上で補習を行う小学校まであらわれた。本屋には小学生向けの問題集や参考書が所狭しと並ぶ。中国のものじゃ不安なのか日本の小学校の算数の教科書まで売られている。TVでは子供が出場するクイズ番組が登場。北京市では発明・アイデアコンクールを行う。知力ゲームが飛ぶように売れる。そしてルービックキューブの流行。

何のことはない日本と同じじゃないかと思われる向きもあろうが、これがほんの1、2年の間に進行するのである。1つの国策が打ち出されるや意志的にそちらに向かってつき進む。やはり原則の国なのである。

眼鏡をかける子供が増え、これではならじと最近では知育ばかりでなく、体育や徳育も、との叫びが起こってきた。

中国は確かに変貌した。しかし、国策に沿い、時の潮流に合わせて身を処し、その中で個人の最大幸福を求めるという行動パターンは少しも変わっていない。

~~~~ \* ~~~~ \*\* ~~~~~~ \*\*\* ~~~~~~ \*\* ~~~~ \* ~~~

~~~~ 学部だより ~~~~

◆ 教育学部だより

日本科学史学会第29回年会富山大会を終って

教育学部教授 林 良 重

去る5月29日、30日、日本科学史学会第29回年会が富山大学で開催されました。この年会が日本海側の大学で行なわれたのは今回がはじめてです。

日本科学史学会は、創立以来40年になり、その規模も全国的に広まり、内容も多彩で豊富になってきました。今回も研究発表は50件に達し、復原実験や科学史の教育への導入などが報告されました。

もともと科学史というのは、詳しくは技術史を含む自然科学史を指すもので、学問としてはかなり新しいものです。その研究目的は、今のところ二つに大別で

きるかと思えます。一つは、科学の本質をさぐるための歴史研究で、それは、理工科系の教育では欠くことのできぬきわめて重要な研究分野です。もう一つは、科学の発展を社会、経済その他の諸文化のなかで位置づけ、科学が時代とともに果してきた社会的役割をさぐる研究分野です。

もちろんこの二つの研究目的は、互いに補い合って科学史の役割を強化します。科学史は、科学の分類や定義づけが時代とともに変化していく様子や、偉大な発明発見の背後には成功したり失敗した有名無名の無

数の科学者や科学愛好家の支えがあったことなど、さまざまなことがらを教えてください。

とくに第二次大戦後の科学技術の進歩発展は目をみはるばかりの飛躍ぶりで、それだけに科学技術の乱用による環境汚染（公害）も目立ってきました。これは科学技術の進歩自体には責任はなく、それを操る人間にこそ問題があるのです。

そこで、科学技術をヒューマニスティックな立場でコントロールすることのできる信念のある人間をつく

べきです。それには、科学史の知識を広い視野で理解することが最上の手段だといえるでしょう。この年会を機会に本学を中心に科学史研究の輪がいつそう広まることを願ってやみません。

おわりに、本学人文学部の楠瀬勝教授による「江戸末期における郷紳の学問と技術 — 石黒信由以下4代について」と題した特別講演が聴衆に多大な感銘を与えたことを記し、ここに改めて楠瀬教授に対し深甚の謝意を表する次第です。

教育学部新営校舎について

第1体育館横の一際目立つ白い建物は昭和56年12月に竣工した教育学部第3校舎です。

5階建で、隣接する4階建の旧体育棟とは1階から3階まで短い廊下でつながっています。

1階に体育科及び12番講義室、2階に数学科及び13、14講義室、3階に国語科及び15、16番講義室、4階に美術科及び18、19番講義室、5階に美術科のアト

リエ、デザイン室等があります。

中でも16番の中講義室、19番の大講義室は収容人員が150名、240名で教育学部最大のものです。将来は今年度設置されます教育学部附属教育実践研究指導センターとケーブルで結び、研究や指導も行われることになっており、その総合的教育の効果が期待されています。

◆ 経済学部だより

経済学部ゼミナール協議会主催の恒例の講演会が、5月12日に、東京大学経済学部教授根岸 隆氏を講師に御招きして、「ケインズ経済学をめぐって」と題し、201番教室で行われた。根岸教授が、当学部の授業用教科書・参考書の著作者として、学生の間でも馴染み深いせいもあってか、150名余りの聴講者があった。

また、一般教養からの学生の参加も多かったようである。御講演の後、109番教室で根岸教授を囲んで座談会が催された。15名余りの参加で、活発な意見の交換が行われた。ゼミナール協議会では例年このような催しを企画しているので、他学部の学生諸君もこのような機会に是非多数聴講していただきたいと思います。

1 年 間 よ ろ し く

私は山本ルシー江美と言います。18才です。ポルトガル語を話す国ブラジルから来ました。私の住んでいる所はオザスコ市と言い、大サンパウロ市の中で一番産業の発達している町です。サンパウロ経営大学の1

年生を終えたところで、今度、富山県の県費留学生として富山大学で勉強することになりました。他にも行きたい国はたくさんありますが、祖父母が高岡市出身なので、一番先に日本に来たいと思っていました。そ

富山県費留学生（経済学部経済学科）

山本ルシー江美

(Lucy Emi Yamamoto)

れに、日本は世界中で経済が一番発達している国の一つだからです。

私が富山に来てからまだ2か月たらずですが、色々なことを知りました。食物はおいしいし、人々はみな親切です。それに、ブラジルに比べて街路が整然としており、ゴミも余り落ちていなくてきれいだし、車も歩行者も交通信号をよく守るように思います。

1年間の日本滞在中、特に世界経済と日本経済の勉強をして、ブラジルに帰ったら日本で勉強したことを

役立てたいと思っています。

富山県が私達に留学の機会を与えてくださったことに感謝いたします。これから約1年間よろしく願いいたします。

(指導教官注記 この日本語文は、本人がポルトガル語で記した原稿をもとにして日本語で口述したものに、指導教官が原意を損わない程度に多少手を加えたものである。)

(山本ルシー江美ポルトガル語原文)

Meu nome é Lucy Emi Yamamoto, tenho 18 anos de idade.

Vim do Brasil, onde é usado o idioma Português.

A cidade onde moro no Brasil, é Osasco, uma das maiores cidades onde se concentra a área industrial na Grande São Paulo.

Vim para o Japão como bolsista-estagiária para a Província de Toyama, pelo fato de meus avós paternos serem descendentes desta Província da cidade de Takaoka.

Eu poderia ter escolhido outro País, mas escolhi o Japão por ser considerado o mais desenvolvido na área de Economia.

No Brasil, estudo na Faculdade de Administração de São Paulo, onde curso Comércio Exterior.

Estou apenas 2 meses aqui em Toyama e conheci coisas maravilhosas, tais como: comida deliciosa, pessoas gentis, cidade limpa e organizada.

Como meu campo de estudos aqui no Japão é Economia, pretendo me especializar em Economia Internacional e Economia Japonesa, assim, quando eu voltar ao Brasil aplicarei tudo o que aprendi durante este um ano de estadia.

Estou muito feliz por ter tido esta oportunidade que o Governo está oferecendo para mim e outros estrangeiros.

Desde já, agradeço .

MUITO OBRIGADO!

◆ 教養部だより

5月20日(木)午後3時～5時にかけて、教養部201番教室で講演会が開催されました。講師は、日本独文学会・日本ゲーテ協会の招きで来日されたゲーテ学者のデートレフ・リュエダース博士(西独、フランクフルト・ゲーテ博物館長)で、当日の演題は「ワイマルとローマの間のゲーテ」でした(教養部大谷先生による解説・通訳付き)。今年はゲーテ没後150年に当り、

世界各地でさまざまな催しが行われ、ゲーテの現代的意義が問われつつありますが、この講演では、特にゲーテのイタリア滞在を中心に、文献や現地の風物のスライド映写によりながら、ゲーテの思想の発展の軌跡が辿られました。当日集まった約80名の聴衆は、最後まで熱心に耳を傾けていました。

＝ 保健管理センターだより ＝

以前から予告しておりましたレク・セラピー室が出来上がり、4月から開放いたしました。

いろいろの器具を取り揃えましたので、気軽にご利用ください。

(1) レク・セラピー室について

レク・セラピー室とは、レクリエーション・セラピー室ということです。

仕事や勉強の余暇を利用して、いろいろの器具を使用したり、ゲームをしながら、あるいは語り合いながら、精神的、肉体的に新しい力を盛りかえす、あるいは発見するための部屋という意味です。

(2) 目 的

健全な体力の保持・増進そしてゲームや語らいを通して、人と人との輪を広めて行くことができればという願いから、レク・セラピー室を設けたのです。

(3) 準備されている器具

① 身長計、体重計、肺活量計、握力計、脊筋力計、伏臥上体そらし測定器、立位体前屈測定器、

踏台昇降器 etc

② ゲーム器具

囲碁、将棋、オセロ、トランプ etc

③ その他の器具

ぶらさがり器 etc

(4) レク・セラピー室利用心得

① 使用時間

平 日 9：00～16：30まで

土曜日 9：00～11：30まで

(注) 日曜、祝日およびセンター行事で部屋を使用する日は、利用できません。

② 部屋を利用できるのは、富山大学の学生および職員のみです。

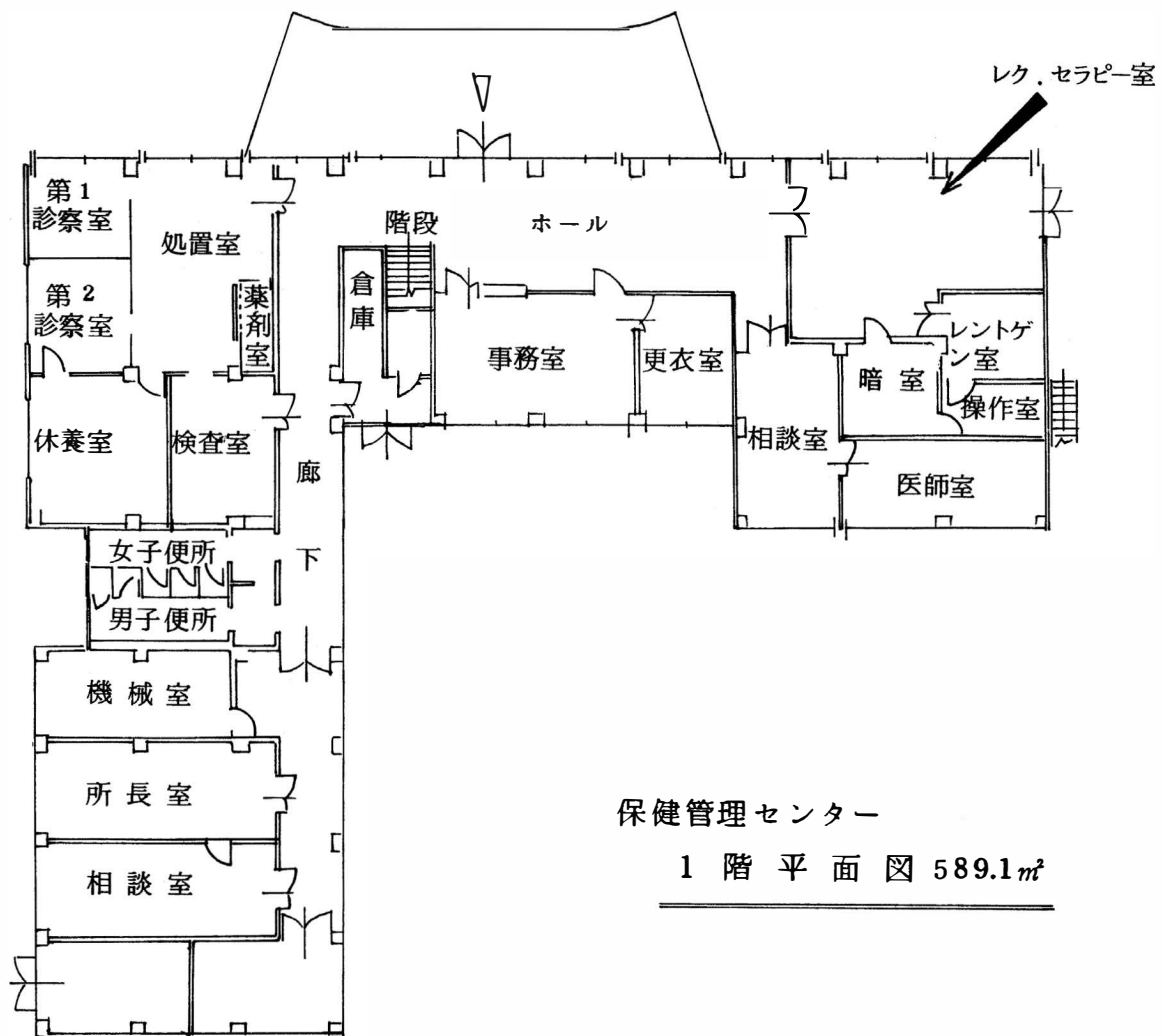
③ 入室の際は、入口にあるロッカーを使用し、必要以外のものは持ち込まない。

④ 器具類は、室外に持ち出さぬこと。

⑤ 器具使用後は、整理・整頓しておくこと。

(5) 場 所

下図のとおり。



学生部だより

来春卒業予定の皆さんへ

学生部長 四谷平治

皆さんは卒業後の進路についていろいろ検討されていることと思いますが、すでに御承知のように、就職のための選考開始時期等については、大学・高等専門学校関係11団体と中央雇用対策協議会の双方において次のような内容の申し合わせが行われております。

① 求人（求職）のための企業と学生の接触開始は卒業前年の10月1日。

② 選考開始は卒業前年の11月1日。

これらの申し合わせは、学校教育を適正に実施し、学生の就職の機会均等・公平性を確保するという観点から定められたのです。

皆さんもこの趣旨を十分理解されて就職協定遵守のため御協力をお願いします。

北陸四大学学生総合体育大会(北四)として親しまれてきた本大会は、福井医科大学の参加を得て北陸地区国立大学体育大会と名称が改められることになりました。なお、今年度(第34回)は北陸地区国立大学体育連盟及び福井大学の主催で、7月11日(日)を中心に別記会場で開催されます。

競 技 日 程

| 種 目 | 期 日 | 開始時間 | 競 技 会 場 | 競 技 方 法 及 び 小 種 目 |
|----------------|---|---|---|---|
| 陸上競技 | 男・女 7月11日 | 10:00 | 福井県営陸上競技場 | 男子(トラック) 100m, 200m, 400m, 800m, 1500m, 5000m, 110mH, 400mH, 3000mSC, 400mR, 1600mR
(フィールド) 走巾跳, 三段跳, 走高跳, 棒高跳, 円盤投, 砲丸投, 槍投
ハンマー投
女子(トラック) 100m, 200m, 400m, 800m, 100mH, 400mR
(フィールド) 走巾跳, 走高跳, 円盤投, 砲丸投, 槍投 |
| 野 球 | 男 7月4日(雨天の場合5日に順延) | 9:00 | 福井県営野球場 | リーグ戦 |
| 庭 球 | 男・女 7月9日・10日・11日(雨天の場合は12日まで順延) | 9:00 | 福井大学屋外球技コート | 団体(トーナメント戦) 男子 4複7単
女子 2複3単 |
| 軟式庭球 | " 7月11日(雨天の場合12日に順延) | 9:00 | 武生中央公園庭球場 | 団体(点取りリーグ) {男子 5チーム9セット
女子 3チーム9セット}
個人(トーナメント) {男子 15チーム以内9セット
女子 10チーム以内9セット} |
| 卓 球 | " 7月11日 | 10:00 | 北陸電力体育館 | 団体(リーグ戦) {男子 4複7単
女子 2複5単}
個人(トーナメント・シングルスのみ) {男子 20名以内
女子 12名以内} |
| バドミントン | " 7月10日・11日 | 10:30 | 福井医科大学体育館
福井大学体育館 | 団体(点取りリーグ) {男子 3複4単
女子 2複3単}
個人(トーナメント) {シングルス 男子 12名以内・女子 10名以内
ダブルス 男子 6組以内・女子 5組以内} |
| バレーボール | " 7月11日 | 10:00 | 三国町民体育館 | トーナメント戦 3位決定戦 3セット |
| サ ッ カ ー | 男 6月19日
6月20日
6月27日
7月10日
7月11日 | 15:00
14:00
10:00
15:30
14:00 | 富山医科大学グラウンド
県営サッカー場
福井大学グラウンド
金沢大学グラウンド
" | リーグ戦 |
| ラゲビー
フットボール | " 6月20日
6月27日
7月4日 | 13:00
13:00
13:00 | 福井医科大学グラウンド
金沢大学グラウンド
福井医科大学グラウンド | リーグ戦(未決定のときは引分け) (35-5-35) |
| 剣 道 | 男・女 7月11日 | 9:00 | 福井大学
附属中学校体育館 | 団体(点取りリーグ) {男子 13名以内(登録は15名以内)
女子 5名以内(" 7名以内)}
個人(トーナメント) {男子 10名以内
女子 5名以内} |
| 柔 道 | 男 6月20日 | 10:00 | 福井県武道館 | 団体(点取りトーナメント) 3位決定戦 個人(トーナメント) 4名以内 |
| バスケットボール | 男・女 7月11日 | 10:30 | 高志高校体育館 | トーナメント戦 3位決定戦 |
| 水 泳 | " 7月11日 | 10:30 | 福井大学プール | 男子 自由形 100m, 200m, 400m, 800m
背 泳 100m, 200m
平 泳 100m, 200m
バタフライ 100m, 200m
メドレーリレー 400m
リレー 200m, 800m
個人メドレー 200m
女子 自由形 100m, 200m, 400m
背 泳 100m, 200m
平 泳 100m, 200m
バタフライ 50m, 100m
メドレーリレー 400m
リレー 200m, 400m
個人メドレー 200m |
| ヨ ッ ト | " 7月10日・11日 | 9:00 | 三国ヨットハーバー | 総合と種目別(スナイプ, 470級)
スナイプ級2艇制, 470級2艇制 |
| 準硬式野球 | 男 7月10日・11日(雨天の場合は18日に延期) | 13:00
9:00 | 福井大学グラウンド | トーナメント戦 3位決定戦 |
| ハンドボール | " 7月11日 | 10:30 | 羽水高校体育館 | トーナメント戦 3位決定戦 |
| 空 手 道 | " 7月11日 | 10:00 | 福井大学
附属小学校体育館 | 団体 自由組手(5組) リーグ戦
個人 自由組手各校4名以内2分1本勝負(引分けの時2分延長後判定)
トーナメント戦 |
| 弓 道 | 男・女 7月11日 | 9:00 | 福井大学弓道場 | 団体 男子 8名(1人20射 計160射) 四ツ矢5回
女子 4名(1人20射 計80射)
個人 団体戦出場者および男女8名
(20射中の中数の多い者) |
| 体 操 | " 7月11日 | 10:00 | 福井商業高校体育館 | 男子 床運動・鞍馬・平行棒・吊輪・跳馬・鉄棒
女子 床運動・段連平行棒・平均台・跳馬 |
| 自 動 車 | " 7月11日 | 7:00 | 福井自動車学校 | ファイアレース
(1) 軽四輪(550CC以下)
(2) 小型トラック(ナンバーキャブオーバータイプ)
(3) 小型乗用車
(4) 普通乗用車 |
| 創作舞踊 | 男・女 7月10日 | 14:00 | 福井市民福祉会館 | 公開演技 |
| 少林寺拳法 | 男・女 7月10日 | 13:00 | 福井大学武道場
(1階 剣道場) | 公開演武(団体演武・組演武・個人乱捕リーグ戦) |
| 合気道 | 男・女 7月10日 | 13:00 | 福井大学武道場
(2階 柔道場) | 公開演武(組演武) |

昭和 57 年度 富山大学都道府県別入学者数調

昭和 57 年 5 月 1 日現在

| | 人 文 | 教 育 | 経 済 | 理 | 工 | 計 (%) |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|----------------|
| 北 海 道 | | | | 1 | | 1 (0.1) |
| 青 森 | | | | 1 | | 1 (0.1) |
| 岩 手 | | | | | | |
| 宮 城 | | | 1 | | | 1 (0.1) |
| 秋 田 | | | | | | |
| 山 形 | | | 2 | | | 2 (0.2) |
| 福 島 | 2 | 1 | | | 1 | 4 (0.3) |
| 茨 城 | | | | | 1 | 1 (0.1) |
| 栃 木 | 2 | | 1 | 2 | | 5 (0.4) |
| 群 馬 | 2 | | | 1 | | 3 (0.2) |
| 埼 玉 | 1 | | 2 | 2 | | 5 (0.4) |
| 千 葉 | 1 | | | | | 1 (0.1) |
| 東 京 | 3 | | 2 | 4 | | 9 (0.7) |
| 神 奈 川 | | 1 | | | | 1 (0.1) |
| 新 潟 | 2 | | 2 | 7 | | 11 (0.9) |
| 富 山 | 90 | 186 | 180 | 84 | 179 | 719 (60.2) |
| 石 川 | 30 | 41 | 28 | 23 | 64 | 186 (15.6) |
| 福 井 | 8 | 5 | 20 | 2 | | 35 (2.9) |
| 山 梨 | 2 | | | | | 2 (0.2) |
| 長 野 | 1 | | | 2 | | 3 (0.2) |
| 岐 阜 | 4 | 5 | 24 | 12 | 12 | 57 (4.8) |
| 静 岡 | | | 2 | 2 | | 4 (0.3) |
| 愛 知 | 12 | | 15 | 15 | 30 | 72 (6.0) |
| 三 重 | | | 4 | 1 | 2 | 7 (0.6) |
| 滋 賀 | | | 3 | 2 | 1 | 6 (0.5) |
| 京 都 | | 1 | 2 | 2 | 3 | 8 (0.7) |
| 大 阪 | 1 | | 3 | 8 | 2 | 14 (1.2) |
| 兵 庫 | | | 2 | 4 | 7 | 13 (1.1) |
| 奈 良 | 1 | | | 1 | | 2 (0.2) |
| 和 歌 山 | 1 | | 1 | | 2 | 4 (0.3) |
| 鳥 取 | | | | | | |
| 島 根 | 2 | | | | | 2 (0.2) |
| 岡 山 | 1 | | 2 | 2 | 1 | 6 (0.5) |
| 広 島 | | | | | | |
| 山 口 | | | 1 | | | 1 (0.1) |
| 徳 島 | | | | | | |
| 香 川 | | | | | | |
| 愛 媛 | | | | | | |
| 高 知 | | | | 1 | | 1 (0.1) |
| 福 岡 | 1 | | 3 | | | 4 (0.3) |
| 佐 賀 | 1 | | | | | 1 (0.1) |
| 長 崎 | 1 | | | | | 1 (0.1) |
| 熊 本 | | | | | | |
| 大 分 | | | | | | |
| 宮 崎 | | | | 1 | | 1 (0.1) |
| 鹿 児 島 | | | | | | |
| 沖 縄 | | | | | | |
| 計 | 169 | 240 | 300 | 180 | 305 | 1,194 (100.0) |

昭和 56 年度 卒業生進路（就職）状況

昭和 57 年 5 月 1 日現在

| 学部 | 項目
学科課程 | 性別 | 卒業生数 | | 就 職 者 数 | | 就 職 不 希 望 者 数 | | 就 職 者 数 | | 未 就 職 者 数 | | 就 職 率 (%) | |
|------|------------|-----|------|-----|---------|-----|---------------|-----|---------|-----|-----------|------|-----------|------|
| | | | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 |
| 文理学部 | 文学科 | | 4 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 3 | 0 | 25.0 | 0 |
| | 理学科 | | 8 | 0 | 7 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 5 | 0 | 28.6 | 0 |
| | 計 | | 12 | 0 | 11 | 0 | 1 | 0 | 3 | 0 | 8 | 0 | 27.2 | 0 |
| 人文学部 | 人文学科 | | 40 | 21 | 29 | 18 | 6 | 1 | 27 | 16 | 2 | 2 | 93.1 | 88.9 |
| | 華文学科 | | 26 | 43 | 20 | 39 | 3 | 1 | 19 | 34 | 1 | 5 | 95.0 | 87.2 |
| | 部 計 | | 66 | 64 | 49 | 57 | 9 | 2 | 46 | 50 | 3 | 7 | 93.9 | 87.7 |
| 教育学部 | 小学校教員課程 | | 28 | 106 | 27 | 102 | 1 | 4 | 26 | 97 | 1 | 5 | 96.3 | 95.1 |
| | 中学校教員課程 | | 18 | 27 | 18 | 27 | 0 | 0 | 16 | 23 | 2 | 4 | 88.9 | 85.2 |
| | 養護学校教員課程 | | 1 | 14 | 1 | 13 | 0 | 0 | 1 | 12 | 0 | 1 | 100 | 92.3 |
| | 幼稚園教員課程 | | 0 | 26 | 0 | 26 | 0 | 0 | 0 | 20 | 0 | 6 | 0 | 76.9 |
| | 計 | | 47 | 173 | 46 | 168 | 1 | 4 | 43 | 152 | 3 | 16 | 93.5 | 90.5 |
| 経済学部 | 経済学科 | | 112 | 4 | 109 | 4 | 1 | 0 | 109 | 4 | 0 | 0 | 100 | 100 |
| | 経営学科 | | 112 | 9 | 106 | 8 | 2 | 0 | 106 | 8 | 0 | 0 | 100 | 100 |
| | 計 | | 224 | 13 | 215 | 12 | 3 | 0 | 215 | 12 | 0 | 0 | 100 | 100 |
| 理学部 | 数学科 | | 23 | 6 | 19 | 4 | 3 | 1 | 18 | 4 | 1 | 0 | 94.7 | 100 |
| | 物理学科 | | 33 | 0 | 27 | 0 | 6 | 0 | 23 | 0 | 4 | 0 | 85.2 | 0 |
| | 化学科 | | 17 | 15 | 9 | 15 | 8 | 0 | 7 | 13 | 2 | 2 | 77.8 | 86.7 |
| | 生物学科 | | 23 | 8 | 14 | 4 | 6 | 1 | 10 | 2 | 4 | 2 | 71.4 | 50.0 |
| | 地球科学科 | | 19 | 4 | 8 | 4 | 7 | 0 | 8 | 4 | 0 | 0 | 100 | 100 |
| | 計 | | 115 | 33 | 77 | 27 | 30 | 2 | 66 | 23 | 11 | 4 | 85.7 | 85.2 |
| 工学部 | 電気工学科 | | 42 | 0 | 38 | 0 | 3 | 0 | 37 | 0 | 1 | 0 | 97.4 | 0 |
| | 工業化学科 | | 30 | 4 | 22 | 1 | 7 | 2 | 22 | 1 | 0 | 0 | 100 | 100 |
| | 金属工学科 | | 24 | 0 | 18 | 0 | 6 | 0 | 18 | 0 | 0 | 0 | 100 | 0 |
| | 機械工学科 | | 38 | 0 | 31 | 0 | 5 | 0 | 31 | 0 | 0 | 0 | 100 | 0 |
| | 生産機械工学科 | | 37 | 0 | 34 | 0 | 2 | 0 | 34 | 0 | 0 | 0 | 100 | 0 |
| | 化学工学科 | | 31 | 0 | 24 | 0 | 6 | 0 | 24 | 0 | 0 | 0 | 100 | 0 |
| | 電子工学科 | | 43 | 0 | 36 | 0 | 7 | 0 | 36 | 0 | 0 | 0 | 100 | 0 |
| 計 | | 245 | 4 | 203 | 1 | 36 | 2 | 202 | 1 | 1 | 0 | 99.5 | 100 | |
| 合 計 | | | 709 | 287 | 601 | 265 | 80 | 10 | 575 | 238 | 26 | 27 | 95.7 | 89.8 |

昭和56年度 卒業生産業別就職状況

昭和57年5月1日現在

| 産業別 | | 学部 | | | | | | 合計 | 産業別 | | 学部 | | | | | | 合計 | |
|---------------|-------------------|------|------|------|-----|------|-----|-----------------------------------|-----------------|--------------------------------------|-------------|------|------|-----|------|-----|-----|-----|
| | | 人文学部 | 教育学部 | 経済学部 | 理学部 | 文理学部 | 工学部 | | | | 人文学部 | 教育学部 | 経済学部 | 理学部 | 文理学部 | 工学部 | | |
| 農 業 | | | | | | | | | 不 動 産 業 | | | | | | | | | |
| 林 業 | | | | | | | | | 運 輸 ・ 倉 庫 業 | | | 4 | 1 | | | 2 | 7 | |
| 漁業・水産養殖業 | | | | | | | | | 電 気 ・ ガ ス ・ 水 道 | | | 3 | | | | 6 | 9 | |
| 鉱 業 | | | | | | | | | マ コ ス ミ | 新 聞 ・ 出 版 | 7 | 1 | | | | | 8 | |
| 建 設 業 | 1 | 1 | 8 | 4 | | 3 | 17 | | ラ ジ オ ・ テ レ ビ | 1 | | 2 | 1 | | | 1 | 5 | |
| 製 造 業 | 食 料 品 | | | 8 | | | 8 | | 小 計 | 8 | 1 | 2 | 1 | | | 1 | 13 | |
| | 織 維 | 1 | | 5 | 3 | | 3 | 12 | サ ー ビ ス | 広 告 ・ 観 光 業 | 1 | | 2 | 3 | | | 6 | |
| | 印 刷 | 2 | 1 | 7 | | | 3 | 13 | | 医 療 保 健 業 | | | | | | | | |
| | 化 学 工 業 | | | 7 | 8 | | | 16 | | 31 | 教 育 | 33 | 173 | | 29 | 2 | | 237 |
| | 石 油 ・ 石 炭 製 品 | 1 | | | | | | | | 1 | 非 営 利 的 団 体 | | 9 | 1 | | | | 10 |
| | 鉄 鋼 | | | | | | 4 | 4 | | 公 共 企 業 体 等 | | | | | | | 1 | 1 |
| | 非 鉄 金 属 | 1 | | 2 | 1 | | 9 | 13 | 小 計 | 34 | 182 | 3 | 32 | 2 | 1 | 254 | | |
| | 金 属 製 品 | | 1 | 14 | 2 | | 12 | 29 | 公 務 | 国 家 公 務 員 | 3 | 1 | 9 | 2 | | | 15 | |
| | 一 般 機 械 器 具 | 3 | | 2 | | | 40 | 45 | | 地 方 公 務 員 | 6 | 3 | 24 | 11 | | 4 | 48 | |
| | 電 気 機 械 器 具 | | 1 | 14 | 8 | | 45 | 68 | 小 計 | 9 | 4 | 33 | 13 | | 4 | 63 | | |
| 輸 送 用 機 械 器 具 | 1 | | 8 | 1 | | 16 | 26 | 上 記 以 外 の も の | 15 | 3 | 12 | 10 | 1 | 9 | 50 | | | |
| 精 密 機 械 器 具 | | | 4 | 1 | | 6 | 11 | 合 計 | 96 | 195 | 227 | 89 | 3 | 203 | 813 | | | |
| そ の 他 | 2 | | 4 | 1 | | 12 | 19 | | | | | | | | | | | |
| 小 計 | 11 | 3 | 75 | 25 | | 166 | 280 | | | | | | | | | | | |
| 卸 小 売 業 | 商 事 ・ 貿 易 | 3 | 1 | 4 | 1 | | 11 | 20 | 規 模 別 就 職 先 | 大 企 業
(従 業 員
数 500
人 以 上) | 27 | 0 | 137 | 29 | | 134 | 327 | |
| | 百 貨 店 ・ ス ー パ ー | 5 | | 27 | | | | 32 | | 中 企 業
(従 業 員
数 100
- 499 人) | 11 | 3 | 42 | 10 | 1 | 54 | 121 | |
| 小 計 | 8 | 1 | 31 | 1 | | 11 | 52 | 小 企 業
(従 業 員
数 99 人
以 下) | | 14 | 3 | 15 | 5 | | 8 | 45 | | |
| 金 融 保 険 | 銀 行 | 1 | | 22 | | | | 23 | | 企 業 以 外 | 44 | 189 | 33 | 45 | 2 | 7 | 320 | |
| | 信 用 金 庫 ・ 信 用 組 合 | 3 | | 25 | 1 | | | 29 | | | | | | | | | | |
| | 保 險 業 | 1 | | 6 | | | | 7 | | | | | | | | | | |
| | 証 券 ・ 商 品 取 引 | 5 | | 3 | 1 | | | 9 | | | | | | | | | | |
| 小 計 | 10 | | 56 | 2 | | | 68 | | | | | | | | | | | |

◆ 学園ニュース編集委員

学生部長 教授 四 谷 平 治
 人文学部 講師 山 口 幸 祐
 教育学部 教授 大 塚 恵 一
 経済学部 助教授 小 原 久 治

理学部 教授 松 本 賢 一
 工学部 " 多 々 静 夫
 教養部 助教授 木 越 治